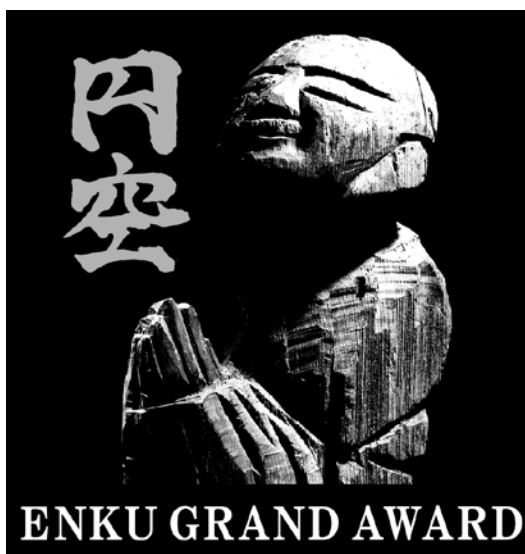


# 第8回 円空大賞

## 受賞者の紹介



# 第8回円空大賞総評と受賞者

## <第8回円空大賞総評>

日本の美術界における「円空大賞」の評価が高まったゆえであろうか。今回の候補者もすぐれた芸術作品を制作する有名無名の芸術家が多く、選考に苦勞したほどである。「円空大賞」に選ばれた中谷芙二子氏など、新しいジャンルを開拓した芸術家すら存在する。受賞者の顔ぶれは、日本の美術界が花盛りを迎えていることを物語っているかのようなようである。選考委員としても、次回はどうのような芸術家が候補にのぼるか甚だ楽しみである。

選考委員長 梅原 猛（国際日本文化研究センター顧問）

## <受賞者>

円空大賞	中谷 芙二子	(なかや・ふじこ)	P 2
円空賞	浅野 健一	(あさの・けんいち)	P 4
円空賞	大巻 伸嗣	(おおまき・しんじ)	P 6
円空賞	西野 陽一	(にしの・よういち)	P 8
円空賞	ノロ 燐	(のろ・りん)	P 10

# 第8回 円空大賞

なかや・ふじこ

## 中谷 芙二子

Fujiko Nakaya



国籍 日本  
北海道生まれ  
生年 1933年  
職業 霧の彫刻家

### 選 評

中谷芙二子さんのことを僕は、「地球学校」の同級生だと勝手に思っている。僕たちは、1970年大阪万国博のお祭り騒ぎの中でデビューした。中谷さんはペプシ館を霧で包むイベントで、世間をあつと言わせた。それまで、自然現象そのものをアートにするなんて、誰も考えていなかったからだ。

霧は、目の前をベールで覆うことで、ゆるやかに、ときには劇的に風景を変えていく、神秘的な現象だ。それは、温度、湿度、風の強さや方向などすべてが整ったときに生まれる。そんなデリケートなものを、人工的に自由自在に作るなんて、僕には人間業とは思えない。よほど入念な現地調査や、経験に裏付けられた高度な技術が必要なのだろう。

中谷さんは、ダンサーや照明デザイナーも巻き込んで、世界中の建物や、大自然を舞台に、数々の霧のイベントを成功させてきた。大阪万国博から45年、中谷さんは霧を、僕は風や水を、いまだに追いつけている。自然から学ぶことには限りが無い。

新宮 晋(造形作家)

### 作家略歴

- 1933 北海道札幌市に生まれる(父親は雪氷研究者の中谷宇吉郎)
- 1957 ノースウエスタン大学 美術科 卒業(アメリカ) 卒業後、パリとマドリードで絵画を学ぶ(〜'59)
- 1962 油絵個展(東京画廊/銀座)
- 1970 『霧の彫刻』初制作(大阪万博ペプシ館)
- 1972 山口勝弘らと「ビデオひろば」を結成 ビデオ・コミュニケーション・プロジェクトを展開。
- 1976 霧の彫刻『EARTH TALK』制作(第2回シドニービエンナーレ)  
オーストラリア文化賞 受賞
- 1980 「ビデオギャラリーSCAN」(東京原宿)開設 ※ビデオ作品の上映、若手の育成、国際交流を推進
- 1983 霧環境『砂漠の微気象圏』制作(オーストラリア国立美術館コレクション)
- 1987 国際ビデオ・テレビ・フェスティバルを主催(青山スパイラル)('89'92)
- 1989 霧の庭『Skyline』制作(ラ・ヴィレット公園/パリ) ※アラン・ペリシエ(建築家)との共作
- 1992 『霧の森』制作(国営昭和記念公園こどもの森/恒久施設)
- 1993 吉田五十八賞特別賞 受賞
- 2002 『オパール・ループ/雲』制作(アディソン・ギャラリー, ニュー・ミュージアム他4都市巡回)  
※トリシャ・ブラウン(振付家)との共作
- 2003 「E.A.T.-芸術と技術の実験」展(NTTインターコミュニケーションセンター[ICC]/東京)
- 2004 ダンス白洲2004(山梨) ※田中泯(舞踏家)との共作
- 2005 雪と氷との対話展(国立ラトビア自然史博物館/リガ) EU COMMISSION デカルト賞 受賞
- 2008 『雨月物語』制作(横浜トリエンナーレ2008/横浜三溪園)
- 2009 文化庁メディア芸術祭功労賞 受賞
- 2010 『CLOUD FOREST』制作(山口情報芸術センター(YCAM)/山口) ※高谷史郎との共作
- 2012 『Living Chasm』制作(第18回シドニー・ビエンナーレ)
- 2013 『立ち雲』制作(シャトーChaumont/フランス)
- 2014 道後オンセナート2014(道後温泉本館)  
『Veil』制作(フィリップ・ジョンソン THE GLASS HOUSE/コネチカット州U.S.A. 収蔵作品)
- 2015 『FOG BRIDGE』制作(IBT 15 “Enter the Storm”/ブリストルUK)



「Standing Cloud (立ち雲)」 2013年  
Domaine de Chaumont-sur-Loire, France  
Photo: Eric Dufour



「Veil」 2014年  
Phillip Johnson Grass House, New Canaan, Ct., U.S.A.  
(Permanent Collection)  
Photo: Richard Barnes



「Pepsi Pavilion」 1970年  
Expo'70 Osaka, Osaka, Japan  
Photo: Fujiko Nakaya

# 第8回 円空賞



あさの・けんいち

**浅野 健一**

**Kenichi Asano**

## 選 評

浅野健一氏は、昭和56年生まれの34歳で円空大賞展の最年少受賞者ということになる。

先般、稲沢市のアトリエを訪問し、何点かの作品を拝見し、又少々インタビューをさせてもらった。そして、感じたことは、若い彼が目には見えない、霊とか神を自分で修得した造形活動の中から表現しようと試みている昨今のようであった。従って、作品は不思議な造形で、日本古来の仏教、神道のあり方や輪廻転生などの概念の企画・広告などが全体を貫く統一的な視点や考え方から生まれた作品となっていた。

長谷川 公茂(円空学会顧問)

国籍 日本  
愛知県生まれ  
生年 1981年  
職業 彫刻家

## 作家略歴

- 1981 愛知県に生まれる
- 1999 愛知県立旭ヶ丘高校 美術科 卒業
- 2004 愛知県立芸術大学 美術学部 彫刻専攻 卒業
- 2006 愛知県立芸術大学 美術研究科 彫刻専攻 修了 ※修了作品で『能格』を制作  
個展「浅野健一展」(表参道ヒルズ GALLERY KOWA/東京)
- 2008 個展(GALLERY IDF/名古屋)  
ART OSAKA 2008(堂島ホテル/大阪)  
東京コンテンポラリーアートフェア2008(東美アートフォーラム/東京)
- 2009 Dアートフェスティバル(ダイテック サカエ/名古屋)  
個展「朋友」(GALLERY IDF/名古屋)
- 2010 力士の土俵入りをモチーフにした作品『力人』が、第13回 岡本太郎現代芸術賞 入選  
「NHK デジタル・スタジアム」ヤノベケンジ ベストセレクション 受賞  
個展「武神一号」(GALLERY IDF/名古屋)  
8th anniversary exhibition(GALLERY IDF/名古屋)
- 2011 個展「avatar」(GALLERY IDF/名古屋)
- 2013 「京都からアートで祝う式年遷宮」依代プロジェクト(下鴨神社/京都)  
超京都(京都)  
PechaKucha × デザインあ展(21\_21 DESIGN SIGHT/東京)
- 2014 個展「浅野健一-Kenichi Asano-剛の者-」(hpgrp GALLERY TOKYO/東京)  
ヤングアート台北2014(台湾)  
ART NAGOYA(名古屋)  
BIWAKOビエンナーレ(滋賀)  
NEW CITY ART FAIR,Japanese Contemporary Art(台湾)  
Maker Fair Tokyo2014(東京ビッグサイト)
- 2015 Five Sculptors(hpgrp GALLERY TOKYO/東京)  
NEW CITY ART FAIR(hpgrp GALLERY TOKYO/ニューヨーク)



**「能格」 2006年**  
檜、樺、松、真鍮、漆、膠、水干絵具  
175×46×26cm



**「剛の者(部分)」 2014年**  
鉄、アクリル、ELシート、ELワイヤー、漆、金箔  
60×45×30cm



**「オーパーツ」 2013年**  
楠、鉄、注連縄  
90×300×120cm  
下鴨神社  
撮影：尾崎芳弘

おおまき・しんじ

## 大卷 伸嗣

Shinji Ohmaki



国籍 日本  
岐阜県生まれ  
(東京都在住)  
生年 1971年  
職業 現代美術家

### 選 評

大卷伸嗣氏は身体の反射神経の連続で造形する。  
大卷伸嗣氏の身体が空間に増幅する。  
大卷伸嗣氏の神経が空間に侵食していく。  
大卷伸嗣氏の行為は生物の進化の過程の造形である。  
大卷伸嗣氏の遺伝子にプログラミングされている大卷伸嗣氏の造形的反射神経は、人に伝導していく為に、より視覚的的刺激に大卷伸嗣氏のエネルギーを費やす。  
大卷伸嗣氏は作品をつくる。何のためにつくる？  
大卷伸嗣氏は自分だけでなく、周りを巻き込みながら進化するために作品をつくる。  
これからの大卷伸嗣氏は、きっと長生きする。  
長生きするための精神的反射神経が注目を浴びる。  
よくわからないならここにきてくれ、待っている。

日比野 克彦(アーティスト 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授)

### 作家略歴

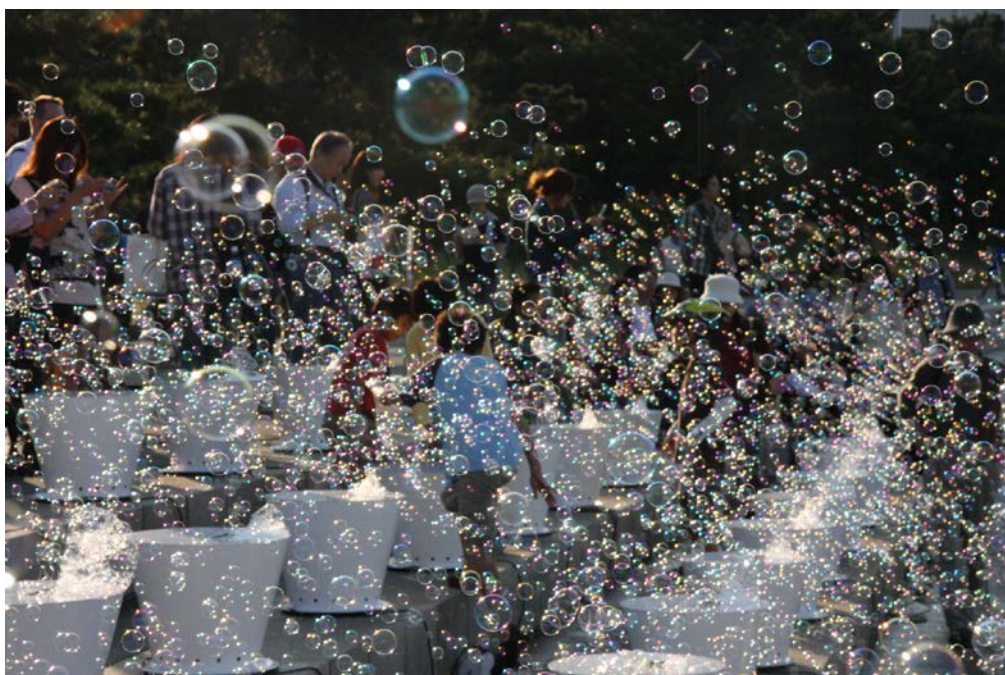
- 1971 岐阜県岐阜市に生まれる
- 1995 東京藝術大学 美術学部彫刻科 卒業
- 1997 東京藝術大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了  
キリンコンテンポラリー・アワード 奨励賞 受賞
- 1998 個展「metamorphosis」(i-cf gallery/東京)
- 1999 第14回 ホルベイン・スカラシップ 奨学者 認定
- 2000 トーキョーワンダーウォール2000(東京都庁)  
※同展出品『Opened Eyes - Closed Eyes』が、トーキョーワンダーウォール賞 受賞
- 2003 第6回 岡本太郎記念現代芸術大賞 特別賞 受賞(川崎市岡本太郎美術館/神奈川)
- 2004 個展「Shinji Ohmaki exhibition」(Red mill Gallery V.S.C/U.S.A)
- 2005 個展「ECHOES-INFINITY」(資生堂ギャラリー/東京)  
マコーミック・トリビューン財団コンペティション 入賞
- 2006 GLOBAL PLAYERS in Ludwig Forum Aachen(Ludwig Forum/ドイツ)
- 2007 個展「大卷伸嗣 Liminal Air -Descend - 2007」(金沢21世紀美術館デザインギャラリー/金沢)
- 2008 横浜トリエンナーレ2008
- 2009 アジアパシフィック・トリエンナーレ2009(Queensland Art Gallery/オーストラリア)
- 2011 個展「Memorandum」(iaab-Project-Space/スイス)  
アジアアートビエンナーレ(国立台湾美術館/台湾)
- 2011~ 東京藝術大学 美術学部 彫刻科 准教授
- 2012 個展「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館/神奈川)  
個展「MOMENT AND ETERNITY」(Thrid Floor-Hermes/シンガポール)
- 2013 個展「Tree of Life - Shinji Ohmaki」(台湾台北)  
The 2012-2013 Sovereign Asian Art Prize Finalist ノミネート
- 2014 個展「世界のつくりかた」(美濃加茂市民ミュージアム)  
個展「DISAPPEARANCE AND FORMATION」(THE DRAWING ROOM/シンガポール)
- 2015 「シンプルなかたち」(森美術館/東京)



**「Echoes-crystallization」 2009年**  
岐阜県美術館  
水晶、修正液、大理石  
1,600 × 1,600cm  
撮影：怡土鉄男



**「Echoes-Infinity」 2010年**  
東京都現代美術館  
岩料、フェルト、カーペット  
1,000 × 2,500cm  
撮影：森田兼次



**「Memorial Rebirth」 2008年**  
横浜市内各所  
FRP、アルミニウム、バブルマシーン、シャボン液  
φ50 × 40cm / 1台 × 50台  
撮影：大巻伸嗣スタジオ



# 第8回 円空賞



にしの・よういち

**西野 陽一**

**Yoichi Nishino**

## 選 評

動物画は円山四条派以来の京都画壇の伝統であるが、西野陽一氏の動物画は伝統的なそれとはいささか趣を異にする。西野氏は、自然の中で生きる野生動物を観察せずには描こうとしない。彼は知床で野生のヒグマを観察しようとしてヒグマに襲われそうになり、またアマゾンの奥地でも危険に遭遇したという。そのような彼はとりわけ海中の生物を描くことを得意とし、最近、おそらく他の誰によっても描かれなかった絢爛たる海中生物の王国を描いている。そこでは、弱肉強食の世界に生きつつも生命そのものもつ喜びや悲しみが歌われているかのようである。

選考委員長 梅原 猛(国際日本文化研究センター顧問)

国籍 日本  
京都府生まれ  
生年 1954年  
職業 画家

## 作家略歴

- 1954 京都府に生まれる
- 1978 京都市立芸術大学日本画科卒業
- 1982 東京セントラル美術館日本画大賞展出展(同'84'88'94)
- 1985 個展 京都堺町画廊
- 1988 個展 東京セントラル絵画館(同'90'93)
- 1993 二人展(栗原幸彦)高島屋(東京・京都・大阪)
- 1997 個展「竜宮'97」高島屋(東京・京都・横浜・大阪)
- 1998 NEXT展(以降10回開催 高島屋 京都店)  
個展 相模屋美術店
- 2001 梅原猛と33人のアーティスト展 高島屋(東京・京都・大阪)  
個展「鳥」(日本橋三越・心齋橋大丸)
- 2002 第20回京都府文化賞奨励賞受賞
- 2003 個展 アマゾン'03(高島屋各店)
- 2005 第2回日経日本画大賞展出品('06第3回展)
- 2006 第19回京都美術文化賞受賞(京都中央信用金庫基金)  
個展 「密林行」三越(日本橋・名古屋)
- 2007 個展 「目細しきものたち」(心齋橋そごう)  
個展 「水の国」(松坂屋)
- 2008 第26回京都府美術文化賞功労賞受賞  
個展 ネオ・ジャポニズム(アートフェア東京・彩鳳堂画廊)
- 2009 梅原猛と10人のアーティスト展(以降2回開催)  
個展 東美アートフェア・春 丸栄堂
- 2010 個展 相模屋美術店
- 2011 個展「アマゾン2011」(三越)  
成都美術ビエンナーレ出品
- 2014 梅原猛と25人のアーティスト展(高島屋各店)
- 2015 個展「竜宮'15」(高島屋各店)



「勇魚」 1993年  
四曲一双



「森の家族」 2009年  
四曲一双



「穂波」 2001年  
四曲一双

# 第8回 円空賞



のろりん

ノロ 燐

Rin Noro

## 選 評

グロテスクは、20世紀以後の芸術に深く根付いた美意識であり、美学者はこれに「醜美」という名称を与えたりする。ノロ燐氏の作品は、その意味での真正のグロテスクであり、その特質は、「六根糞掃衣壇」「鬼子母神」などの迫力に籠められている。一方、彼女の作品の背後には、円空仏にも共通する、日本の土着性に根差した、民衆の信仰と呪術の世界があり、近作「地母神の復活」では、更に普遍的な母性の深層に迫ろうとする意欲を感じさせる。夫で画家であった故・額敏郎氏の伴走者としてのたゆまざる努力とその成果を評価したい。

辻 惟雄(東京大学名誉教授／多摩美術大学名誉教授／MIHO MUSEUM館長)

国籍 日本  
愛知県生まれ  
(高山市在住)  
生年 1942年  
職業 造形画家

## 作家略歴

- 1942 愛知県名古屋市に生まれる
- 1963 読売アンデパンダン展(～'64)
- 1964 第1回個展(東京)
- 1965 岐阜アンデパンダン・アート・フェスティバル
- 1966 シェル美術賞展 佳作賞 受賞
- 1971 劇団夜行館「無縁童女住生絵巻」に童女で特別出演(東京)
- 1973 観音扉押し絵「胎芽供養堂」(舞台美術、津軽巡回)その他 弘前扇ネプタ着手(～'76)
- 1974 朝日美術展 招待出品(丸栄スカイル/名古屋)('77・'78)  
観音扉押し絵\*仏壇『六根糞掃衣壇』
- 1975 麻の蚊帳絵5面図(舞台美術)
- 1976 額敏郎&ノロ燐展〈御苦羅供の晩餐〉(七ツ寺共同スタジオ/名古屋)
- 1977 童女絵馬像-100号・レリーフ押し絵
- 1979 「人形館」展(サンシャインビル、セントラルパーク/東京/名古屋)
- 1986 JAPANエンバ美術賞展 入選('87)
- 1989 蚊帳絵と暗黒舞踏のコラボレーション公演(京都)  
宮城県美術館企画「美術の国の人形たち」展2点招待出品
- 1990 百米巨大絵巻2巻(指導・制作) -国内及びドイツ展(～'91)
- 2005 英国、米国、豪州、オランダなどのコンペ入賞(～'07)
- 2007 メルボルン日豪友好芸術祭 準グランプリ 受賞  
JAALA国際交流美術展 出品('08・'10・'12)
- 2009 今日の墨絵展 招待出品(東京)('10・'12)
- 2010 針生一郎が選んだ愛知60年代の現代美術展(堀美術館/名古屋)
- 2011 3.11以降、宮城県女川町の小学生たちと絵を通じた交流が続く
- 2013 額敏郎&ノロ燐展(御空羅供の晩餐)・あいちトリエンナーレ13・並行企画展  
(七ツ寺共同スタジオ、ちくさ正文館書店本店/名古屋)



ろっこんふんぞうえだん

「六根糞掃衣壇」 1974年

古布・綿・毛髪・粘土・絵の具・box・他  
163 × 140 × 55cm



「麻の蚊帳絵(部分)」 1975年

蚊帳、アクリル絵具・墨・他  
150 × 130cm  
全体図210 × 290 × 200cm



「胎芽供養堂」 1973年

古布・綿・毛髪・木・粘土・クルミ・他  
148 × 74 × 30cm